

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

午前 10 時 00 分 開議

○渡辺議長 これより本日の会議を開きます。

この際、御報告申し上げます。本日の会議に説明のため出席を求めた者の職氏名は、報告書のとおり御了承願います。

なお、本日の議事日程は、配付しております日程書のとおり行いたいと思います。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

## 第 1 市政一般に対する質問

○渡辺議長 それでは、日程第 1、市政一般に対する質問を行います。

順次発言を許します。

初めに、松田議員。

ちょっと待ってください。ちょっと傍聴の皆さんにお伝えしますが、受付されたときにももらいましたね。訳が分からないなら聞いてください。いいですか、私語、談笑、拍手などの行為をしないこと。した場合は、地方自治法第 130 条及び米子市議会傍聴規則第 11 条の規定により退出していただくことがありますので、今後そのようなことがあったら退出を命ずる可能性がありますので、やめてください。

〔傍聴席で発言する者あり〕

○渡辺議長 誰。誰、しゃべったの。注意したでしょう。

松田議員。

〔松田議員質問席へ〕

○松田議員 皆様、おはようございます。松田真哉です。市民の皆様

さん、本当にたくさんの、私を信じていただいて、2期目スタートをすることができました。選挙中、皆様にお約束した、市民の皆様と一緒に変えていきたい、一緒に市民に寄り添った政治を貫いてやっていきたいと思います。初心を忘れず、いいことはいい、悪いことは悪い、是々非々で議論をしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日質問させていただくテーマは2つです。米子駅前通り3車線化、これの是非。2つ目は、今回大幅に低下してしまった投票率、これをどうやって上げていけばいいんだろうと、この2点を是々非々で議論を進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

まず初めに、米子駅前通り、この3車線化、是非について質問をしてみたいと思います。

今回の選挙で私は、駅前通り3車線化、これはやめるべきだ、ストップするべきだ、絶対にする必要はないということをずっと訴えてました。街頭でしっかり訴えて、そして最も多い票をいただくことができたと思っております。なぜか、それはやはり、市民の皆様から駅前の3車線化については、実証実験をして、実際にやってみて、通ってみて、これやめてくれ、絶対にこれやるべきじゃないよって。渋滞もひどくなるし、事故起こったらどうするんだ、何のためにするか訳が分からないよと、そういう声が本当に多かった。です。ので、今回、米子市議会議員選挙で私はこれをまず一つの公約として掲げて、全面的に押し出して投票を多くいただいたと思っております。

鳥取県でも動きがありました。選挙中、選挙が始まって翌日、鳥

取県議会でも駅前通りの３車線化についての質疑がありました。平井知事は、駅前通りの３車線化は今回の米子市議会議員選挙の争点になるものであろう、米子市議会議員の選挙の今回争点だとおっしゃった。市議会議員選挙で出されてくる民意、あるいは議論の行方も、米子市は当然注視されておられるでしょう。我々も県も、そうした民意と離れては存在できない、県庁としての役割がありますので、そうした議論を見定めながら、今後、米子市との協議に臨んでいく、そのような発言をされた。米子市の民意がこの市議会議員選挙でどうだったか、それを重要に考えていく、そのような発言をされておられます。駅前通りは県の管理の県道です。ちなみに、これを伝えておきます。

そこで伺います。平井知事も、この民意、市議会議員選挙どうだったかというのをかなり注視されている。市長は、今回の米子市議会議員選挙、この駅前通りの３車線化について、どのような民意があったと捉えたのか。市長はどういう民意がこの市議会議員選挙であったのか、駅前通り３車線化についてどうだったのか、どうお考えでしょうか。

○渡辺議長　伊木市長。

○伊木市長　全ての候補者の皆様の駅前通り３車線化に対する意見が、この市議会議員選挙の中で出てきたというふうには捉えておりません。そういう意味でいくと、松田さんが言われていたということは存じておりますけれども、特に触れられなかった議員の方が大半ではなかったかなというふうに思います。それも一つの民意なのかなというふうに思います。

○渡辺議長　松田議員。

○松田議員　一番私がたくさん票をいただいた、それは紛れもない事実です。駅前通り３車線化はやっぱり大きい声があった、反対する大きい声があったので、それをずっと訴えてまいりました。ほとんどの議員の方は、逆に、私の知る限りでは、市長の駅前通りの３車線化がいいね、これ、ぜひ進めようよということで公約として掲げられたりして前面に押し出された、そのような立候補者の方はおられなかったのではないかと思います。それだけ立候補された方も、以前の議会で駅前通りの３車線化、１か月実証実験やってみればいいじゃないということで予算案に賛成を投じられた方も、市民の皆様からは、支援者の方からは、やはり、この実証実験やってみて、３車線化はこれよくないねという声があったのではないのでしょうか。間違っていたら、公約でもし駅前通り３車線をやるということで前面に押し出された方がおられたら、御指摘いただければいいと思います。

私はやはり、民意としては、この駅前通り３車線化については、ある程度というか、かなり大きい声があったと思います。市長は私の考えをなかなか理解していただけてませんが、この判断をしっかり見ていただければ、私、松田が駅前通り３車線化をずっと街頭でも訴えた。その結果として、一番多い投票を、無所属で何にも地盤がない議員が１位になった。それは民意がある程度、駅前通り３車線化については、よくない、してほしくないという声が本当に多かったのではないのでしょうか、私はそう思います。駅前通りのことについて、改めて共通理解進めてまいりたいと思います。

まず、駅前通り、過去に溯りますと、もともと２車線でした。昭和５７年頃に２車線だった通りを４車線に広げられた。大体その辺

りに工事が終了した、文献を見てみるとそうっております。かかった費用は当時のお金で6.2億円ぐらい、6億2,000万円ぐらい。当時のお金ですから、今では数十億かけて2車線あった通りを4車線に広げました。事業の目的は渋滞の緩和です。都市交通の著しい混雑を解消するためにやった、税金をかけてやったわけです。そして、今見てみると、駅前通り、通勤や通学、また物資を輸送するための道路、本当に生活の基幹道路となっております。そして、災害が起こった場合は、避難路であったり、物資を運ぶ、そういう重要な防災道路でもあります。1日の交通量は最近でも1万6,000台を超える。4車線が、妥当な量が、交通量、今あるわけです。それを米子市、伊木市長は、駅前通り3車線化にしてみれば人がにぎわうんじゃないかということで、予算をかけて2回実証実験をしたわけです。2回合わせて大体6,000万円、税金から投じて、3車線化、実際にこれやってみたらどうなるか、それをやってみられたわけです。

改めてどのような形だったかということでパネルを作って、市民の皆様に分かっていただければと思って作りました。1か月間このような形で、聞いていただけますでしょうか。今が、変更前がこのような、普通の真っすぐ4車線がきれいにそろった道路です。それを1か月間ジグザグにして、車道を狭くして、歩道を広げて、このような形で車が、車線変更を頻繁にしないと通れないような形にあえてして、こんなところにベンチなどを置いて、置いたら人がにぎわうかな、来るかなということで1か月間やってみられた。この実証実験、約3,800万円かかったということです。予算案で上げました、私はやっぱり渋滞もひどくなるし市民は望んでないからとい

うことで反対をしましたが、ほとんどの議員の方は、3車線化1か月、実証実験やってみればいいじゃないかということで前に進んで実際にやってみられた、実際にやってみられました。1か月間、かなり長い期間、これ、皆さん、市民の皆さんも何でこんなことしてるんだという声があったと思います。そこで伺います。3月の実証実験を終えて、どのように評価、検証、把握されているのでしょうか伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 まず、駅前の実証実験の評価ということでございます。KDDIが提供しております携帯のGPSデータというのを活用いたしまして、歩行者の交通量の調査というのをやっております。それによりますと、大体気候の同じ前年同月と比較いたしまして、平日は同程度というにぎわいがございます、土日、祝日につきましては増加しているという事実がございました。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 それだけですか、分析結果って。何か課題とかそういったものは出ておりませんか。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 追加で御答弁申し上げます。イベント時には、にぎわいっていうのを実感できたものの、平日は前年度同月と比較いたしまして、同程度のやはり歩行者数であったということでございます。

次に、歩道の拡大によるくつろぎの空間でありますとか、にぎわいに肯定的な意見がありましたものの、道路混雑や危険性に関する意見でありますとか、取組への否定的な意見も見られたところでご

ざいます。そのほか、周辺の交通環境への大きな影響というのは認められなかったものでございますが、合流部での急な車線変更でありますとか、滞留により自動車が右折時に交差点内に取り残されたといったような現象が見られたところであります。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 交通状況をもう一回。渋滞が長くなったり、信号がいつもの通勤よりも多くなって進めなくなってしまった、待ち時間が多くなってしまった、回数が多くなってしまった、そのような声もあったんじゃないですか。ちょっと確認をお願いします。

○渡辺議長 手を挙げて。

西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 少数ではございますが、ございました。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 苦情は上げられましたか、市民の皆様から、この駅前通り3車線をしている中で。

○渡辺議長 通告をしてるよね、松田さん。

○松田議員 はい、してます。

○渡辺議長 これは、そういうレベルじゃないけど。

西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 失礼いたしました。御意見頂戴したものでございますが、実証実験に関する御意見につきましては11件ございました。その主な内容でございますけども、米子駅前交差点で郵便局側から右折がしにくかったというもの。それから、車線が減少するところで車が急に割り込んで危なかったというもの。それから、

渋滞が通常よりひどく感じたというものがございました。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 苦情もたくさん、11件ですけども、否定的な声が本当に多かったと思います。アンケートも実施されておりますが、大体何割ぐらいの方が実証実験について、いいとか悪いとか、どのような印象をお持ちだったのか、250件程度アンケートを取っておられると思いますので、大体その分析結果示していただけないでしょうか。委員会でも報告があったと思いますが、確認のためお願いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 失礼いたしました。アンケートの関係でございますが、まず、沿道事業者へのアンケートでは、約7割の方から変化がなかったと思うという回答がありました。これにつきましては、売上げへの影響という観点で伺っております。一方で、7割の方がそうおっしゃったんですが、4.5%の沿道事業者からは、売上げが上がったという回答もございました。あと、御参考までになんですが、下がったと思うという回答は1.5%でございました。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 一般市民の方はどうだったですか。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 そうしますと、一般市民の声でございます。先ほどお答えしたことに重複になるかもしれませんが、歩道の拡大によるくつろぎ空間やにぎわいに肯定的な意見がございました。道路混雑や危険性に関する意見、取組への否定的な意見も見られたと

ころでございます。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 全体で何割ぐらいが否定的だったかというのを伺ってるんですけど。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 大変失礼しました。何割というデータはちょっと今手元にないものですから、後ほど確認してお答えいたします。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 通告もして、実証実験のアンケートって1か月かけてやったわけですよ。重要な数値なのに、なぜ担当の部長の頭になのか、私は理解ができないと思いますよ。大体アンケート見ると、結果、市民アンケートの調査結果では、全体として過半数の回答者が非常によくない、よくないと回答していて、非常によい、よいと回答した3割を上回っているということで、過半数以上が、市民や沿道事業者の実証実験、大まかにやって否定的な声が多かったということなんです。平常時については、結果として人は増えなかった、これが一番のポイントだと思うんです。何のためにするか。やっぱり普通にイベントもしてないときに人が本当に増えるのか。市長が狙う、にぎわいが生まれるのかというところが一番重要だったのではないのでしょうか。これ見てみると、実証実験やってみて、駅前通りの3車線化はよくないなというのが判断できると思います。これからどうやっていくのかということですが、さらに実証実験を何かするような予定があるのでしょうか。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 実証実験につきましては、前回の常任委員会

でも御報告させていただきましたとおり、現時点では、一つの区切りをしたというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 もうしないということですね、取りあえず、当面は。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 私のほうから答弁いたします。実証実験については、もう2回やりましたので、私としては非常に有意なデータが得られたというふうに思っておりますので、実証実験をさらに繰り返すということは基本的にはないというふうに考えてございます。松田議員は否定的な意見なところにクローズアップして御意見を言われておりますけども、道路を歩かれた方に限って言われると、これは非常によかったという肯定的な意見も6割以上あったというふうに認識をしております。一方、ドライバーの方にとっては否定的な意見が6割以上あったという認識でございますので、やはりこれは、歩いている人にいかに焦点を当てた道路づくり、まちづくりをしていくかという観点からいけば、一定の有意なデータは得られたのではないかというふうに思いますし、また冒頭、部長のほうからも説明いたしましたけれども、渋滞や、あるいは交通量の変化については、凸凹はあったものの、特に総じて、押しなべて言えば、大きな変化は見られなかったという結果も得られましたので、これは大変有意なデータが得られたというふうに思っております。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 市長、アンケート見られましたか。

○渡辺議長 静粛にしてくださいね。何度も注意して、終わりませんからね。

伊木市長。

○伊木市長 当然見ております。松田議員は否定的なところに着目されますけれども、我々としては、これに、将来に可能性があるのかという部分について、しっかり拝見もしております。両建てで見えておりますので、これは見ているという答弁になります。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 アンケート見させていただいて、ほとんど、肯定的な意見も確かにあります。見させていただくと、市民の方、参加された方、一般市民の方からのいろいろ全文が書いてあります。15%ぐらいが肯定、否定的な本当に意見がたくさんあるんですね、本当にたくさん。

見させていただくと、上げさせていただくとすれば、例えば、取組は理解しますが場所が駄目です、今回の実証実験は反対です、やってほしくはないです。以前、担当主管に電話連絡をし、交通事故の危険が増大するので、駅前通りではなく、駅前通りの横道に対して実施すべきと提案したのですが、受け入れていただけず今回に至っています。何のために4車線道路が造られているのかをよく考えてみてください。車線減少するなどもってのほかです。ほかにも、以前から思っていたが、はっきり言って、こういう空間は必要ない。造りたいなら文化ホール前の広場や駅の広場を活用すればいい。車で駅前を通る人にとって、車線を減らされることで道路が混雑するし、特に夜間などは、このスペースの隙間から横断歩道を渡らず道路を横断する人が出たときに危険だ。いきなり車線を減らされることで車が突っ込んだりしないか、そういう危険性も十分ある。この場所でそういうことをしたいのであれば、完全に通行止めになるが

いな祭のときだけでいいんじゃないか。この試みが実験だけで終わることを願います。中止してください。そういうような意見が本当に多かった。

私は、市長の立場であれば、実証実験、実際にやってみて、これまで、ここまではっきり市民の皆さんが望んでいないな、そういうことであれば、もう判断する材料は十分に出てるんじゃないでしょうか。実証実験はもう基本的にはされない。これから、では、どんな検討をされていくのか、今後どのような、実証実験をされないのであれば何を検討していくのか、教えていただきたいです。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 まず、先ほどの否定的な意見については、そうだろうなという感想です。といいますのは、実証実験ですので、あくまで仮設のブロックを置いての3車線化という形でしかできません。仮に本当にやるとしたら、歩道をきちんと造り替えて、街路樹、特に車道と歩道を区分けする視覚的な、視認的な要素といえ、これは街路樹からやっぱり動かしていかなければいけませんけれども、街路樹は動かさないまま仮設のブロックでもって車線を規制したために、非常にこれは、ドライバーから見れば障害物に見えてしまった、これは仕方がないことだというふうに思っております。

一方、御意見にあったような、例えば横道と言われると、恐らくそれ、末広通りのことかと思うんですけれども、片側1車線の道でこれをやろうとすると、これは一方通行にせよという話なんです。それはちょっと無理だと思います。やはり、あくまで交差点の中でこれはやっていくべきものだと思いますので、それはないだろうというふうに思います。

今回の実証実験を経て、今後どういう検討をしていくかということですが、一つは、全国的に今こうした動きがあるわけですが、そうした先進事例をよくよく検討して、どのようなプロセスでそうした、例えば歩道を減らした都市が幾つもあるわけですが、どういうプロセスでそれが成し遂げられたのかを、やっぱりもう少し研究し、そして、今年度中には、できれば市民フォーラムのようなものも開催して、そうした検証した結果を市民の皆様と共有していきたいというふうに思うのが1点です。

それから、交通の危険性のところについては、やっぱり実証実験やってみて分かったことの一つは、もともとある交通渋滞が、よりひどくなったということもあるんですが、その意味は、もともと駅前通りには、ほぼほぼ中間のところには右折レーンがないんですよ。右折レーンがないんで、ふだんでも右折車の後ろに車がついてしまうという現象があります。ですから、仮にやる場合は、3車線化やる場合は、右折レーンをうまく残して、うまく設置してやる方法ができないかどうかというのは、これはいずれ、これは県道ですので、県とそれから警察ですね、交通行政は警察がつかさどっておりますので、警察などとも協議をするテーマだろうなと。今しようということではないですけども、そういったこともこの実証実験で分かってきましたので、将来に向けて有意なデータが得られたなというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 今の市長答弁を伺うと、やっぱりまだまだ3車線化については前向きというか、諦められてないんだなと思いますけど、令和7年でしたかね、12月の議会だったと思いますけど、市長は

目標だと言われました、駅前通りの３車線化については目標だ。市長、まだこの実証実験をして、ここまでアンケートの結果や市民の皆さんの声もある中で、まだ目標ですか。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 実証実験までやれたということは、一つ大きな成果だというふうに思ってます。もともとこれ、民間の皆さんからの提言に基づいて、やっぱりこういうのがいいんじゃないかというところで、全国的な事例も踏まえてのことですけれども、やってみたというところでございます。今回の実証実験で、これは報告書に恐らく書いたというふうに思っておりますけれども、本当の課題というのは、やはり３車線化にしたときに、どういうにぎわいが創出できるんだろうか、そこのところだというふうに思っております。そこは、言ってみれば、まだ検討不十分だなというふうに思っております。

ですから、その辺りの見通し、これはやはり沿道の事業者の方を含めた市民の皆様のお声といいましょうか、声がやっぱり必要になりますので、行政としてできる部分は今そこまでやれたんじゃないかなというふうに、今そういうふうな感想を持っています。したがって、本当の課題というのが見つかりましたので、それは今後、フォーラムなどを開きながら、本当に市民の皆様が望んでくれるのかというところをしっかりと見極めたいと、そのように思います。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 市長は今の時点で、やっぱり駅前通り３車線化進めたいという意向が強いんですか、どうなんですか。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 今後の米子のまちづくりというのを考えたときに、や

っぱりそれぐらいのことはしないといけないのではないかという  
思いは持っております。できるかどうかはちょっと別としてですよ。  
今、世界的にも、そして日本の中堅どころの都市にしても、これは  
議場で度々申し上げてきたことですが、いわゆる自動車ファーストをやめようというふうに、言い方をしてるんです。つまり車優先の町なかの交通体系、これを、少なくとも中心市街地のような人が集まるエリアについては、歩きやすい道をいかに造っていくのかということで、世界各国はもちろんですけども、日本も今だんだんとそういうまちづくりに向けて機運が高まってる。実際に動いた都市もあります。

したがって、米子としても、やっぱりそういうまちづくりを目指す一つの考え方として、駅前通りのような人通りの多い道路については、そういう試みをしてもいいんじゃないかという思いは持っております。もちろん最終的には、これはやはり市民の皆様が望まなければ私も踏み込むことはありませんけれども、やはりそれは、今回の実証実験結果などをよく詳しく分析をして、市民にお知らせをした上で、改めて皆さんがどういうふうなお考えなのかというのは確認をしていくつもりでございます。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 実際に実証実験をやってみて、一番重要な、平常時、人が集うことはなかった、増えることはなかった、そういう結果も出てて、もうこれ以上何を検証する必要があるんだろうか。せめて、判断するべきは、私も最初に民意の話をしましたが、駅前通り3車線化を一生懸命訴えた議員が一番多い票をいただいて議場に送り出していただけてる事実もあって、アンケート結果、実際にやって

みて、あまりにもよくないという意見が多い中で、駅前通りをこのようなジグザグの３車線にするというところは、もうここで判断すべきだと思うんです。市民の皆さんは、もうこれやめてくれ、まだやるのか、ほかの方法があるんじゃないかと思うと思うんですよ。県は管理者で、県道ですけど、やっぱり平井知事の答弁とか県の議事録を見させていただくと、まちづくりは、やっぱり米子市だからボールは米子市が持っているんだと。やっぱり米子市が、ここはもう早く、駅前通りの３車線化については、もうやめるという判断が、もうしなきゃいけないと思うし、もしこれからまだ進める、駅前通りの３車線化をまだ一つの案として残していくのであれば、なぜそれが必要かというのを、本当に必要な理由というのを議会にも市民にももう一回示していただかないといけないと思うんです。ほかの方法をもう考えればいいんじゃないですか。駅前通りのジグザグの形はもうやめようと、ほかの。

さっき言われました。以前、市長は、街路樹を撤去して伐採するのは、松田議員、それはよくないじゃないですかとか言われましたけど、さっきは街路樹をちょっと移してというような発言もされました。低木の街路樹を少しなくすとか、大きな伐採はせずに。それで今ある駅前の道を広げる、そして車道は、やっぱり車社会だから、分かりますよ、市長の望まれる理想的なことは。だけどやっぱり今まだ車社会だから、車道の本数はそのまま、歩道をできる限り今の技術で広げる、そういう出口でいいんじゃないですか、いかがですか。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 まず議論の前提をそろえたいと思うんですが、あくま

で実証実験の際は仮設のブロックを置いての実証実験になりましたので、ジグザグになるのは、もうこれ仕方がないなと。その点について否定的な意見を言われることも、これも想定内でありまして、仕方がないことだったなというふうに思っております。したがって、ここは、本当にやる場合はきれいに、街路樹を伐採して撤去ということは僕は言うておりません。きちっと動かして、視覚的にも歩道と車道が区別して見られるような、そういった整備というのは必要であろうと、これは前提でございます。

それから、ほかのやり方というのは当然いろいろ、これだけで歩いて楽しむまちづくりを実現しようとしてるわけではなくて、様々なことも考えておりますけども、ただ、駅前通りというのは公共交通の最も充実したゾーンなんです。つまり、あらゆるバスの最終的な、米子駅を発着するバスの行き来する量が一番多いということもありますし、それと、渋滞するのは、あれを渋滞と言うべきか、信号待ちの列にすぎないとは思っておりますけども、平日の朝のラッシュ時と、それから夕方の帰宅時のラッシュ、これはありますけども、それ以外の時間帯って、見ていただいたら分かるんですけど、交通量、非常に少ないんですよ。例えば夜になればもっと少なくなる。そうしたときに、車道だけで4車線取ってるのはもったいないなという感覚。これをやっぱりもう少し市民の皆様と共有できるようになればいいなと。

松田議員は、今、まだまだ車社会なんだからそれでいいじゃないかというふうな言い方をされましたけども、もう既に、やっぱり車の免許を返納して、次の日からどういうふうに移動していいのかお困りの方というのは続々増えてらっしゃるんですよ。したがいま

して、米子もやはり公共交通も使えるまち、公共交通しかじゃなくて、公共交通も併用して使えるまちというのを目指していかなければ、まちづくりとして持続可能でないということが一つあると思います。

それと、度重ねて言われましたけれども、松田議員がこれを反対して当選されたということは一つの事実であります。じゃあ、そうでない議員の皆さんのほうがたくさんいらっしゃるわけですから、それは、ちゃんと、私の立場としては議員の皆様方の御意見をきちんとお聞きしたいと、そのように思っております。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 公共交通をぜひ充実していただく、これは重要だと思います。だけど、それとこれとは別で、やっぱり駅前通りを本当に通勤で使っておられる方、もう大変だという声が多いんですよ。1か月間やって、何でこんなことしてくれるんだという声が本当に多かったですよ。市長には聞こえてないんですか。先ほど、私以外の議員の方は賛成だみたいなことを言われましたが、本当にそうでしょうか、そういう声が本当に届いてないんでしょうか。僕は届いてると思いますよ。市長に直接教えてくれる市民の方っておられないですか。このやり方は取りあえずやめたほうがいいよって、ジグザグにするのはやめたほうがいいよ、3車線化はやめたほうがいいよ、そういう方はおられませんか。私は、もうどう考えても、今日の議論でも改めて僕は駅前通り、この形での3車線化は絶対に進めるべきではないと思います。

なかなか市長も思いがお強いようで、これ見直す、そこまでは行

きませんでした。このまま平行線が続いてもなかなか議論深まりませんので、市長、私は、市長のためを思っても、これは変更後、こんな形にするのはよくないと思いますよ。市民は誰も望んでないですよ、望んでない。多くの市民が望んでない、このやり方はよくない、これははっきり言っておきます。

今回の議論を聞いていただいて市民の皆様はどのように思われたでしょうか。今新しく入っていただいたメンバーも含めて、議員の方どう思われたでしょうか。最終的には、やっぱりこれ、議会、議員が判断することになります。実証実験も約3,800万円かけてやりました。そのときも、本当にこれ、答えが分かってるんだったら止めることもできたんです。議会はやっぱり、市民の皆さんの税金をきちんと正しく使っているか。執行部、米子市がちょっとおかしいことをしてるな。だったら、やっぱりここで止めておく、そういう機能が一番重要だと思うんです。ぜひ議員の皆様にも、これから、これに関連するような議案も出てくるのではないのでしょうか。委員会でも発言する場面があると思います。ぜひ市民の皆さんの声を聞いていただいて、是々非々で議論をしていただきたい、そう判断をしていただきたいと思います。駅前通り3車線化は反対、改めて反対という気持ちが余計強くなりました、今日の議論で。

次の質問に入ります。ちょっと小さいんで寄っていただいていいですか。投票率について議論を深めていきたいと思います。

今回、市議会議員の選挙、投票率、大幅に下がってしまいました。なかなか字が見えないと思いますが。前回よりも7.1ポイント低下しました。20年間で幾ら下がったかというところ29.16%。なかなか見えづらいかもしれませんが、ここまで大幅にずっと下がって

るわけです。ずっと下がっている。２００６年には６６．４２％あった投票率が、今回３７．２６％に下がってしまった。実に有権者の１０人のうち６人が投票をされてない、そういう結果になってしまいました。この投票率低下、実に嘆かわしいなと思います。もちろん私は、第一義的にはやっぱり議会に責任があると思うんです。不信を招くようなこともありました。議会が何をやってるか分からない、そういう声もあります。議員の皆さん何してんだと。僕らが一生懸命働いた税金を納めて、それを議会がどういうふうな判断をして、どういうふうに動いてるんですか、なかなか見えないう声が多いんです。発信もまだまだ足りない。僕もそれは自負してると思います。

議会報告会なんかも、やって年１回です。これで市民の皆様が、議会、本当に何やってるか分からないと思います。だったら、なかなかやっぱり市民と議会、議員の存在が遠いし、投票しても、何なんだろう、意味あるんだろうかな、そういう状況をつくり出してる一因もあると思います、議員のほうには。だけどやっぱりそれだけでは難しいんで、投票率を上げていただくために、選挙管理委員会さんはじめ米子市のほうで、ここまで下がってるんですから、ずっと。何とかしなきゃいけないと思うんです。ここで伺いますが、投票率上げるために、今回どのような策を取られたのか伺います。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 お答えします。現在、商業施設に設置している期日前投票所の開設時間を拡大し、利便性の向上を図ってまいりました。また、若年層の投票率の向上に資するため、新たに米子工業高等専門学校に期日前投票所を開設し、実施いたしました。

た。次に、投票所入場券を告示前の早期に発送するよう運用の見直しを行い、投票行動の促進を図りました。これにより期日前投票者数の増加が実現できたところであります。また、多様な世代への周知を図るため、エックス、フェイスブック、LINE、インスタグラムの媒体の活用を図りました。前回では未実施であったインスタグラムを新たに導入したほか、各媒体の周知回数を増加させ、情報発信の向上を図ってまいったところであります。加えて、明るい選挙啓発ポスターコンクールにおいて、市内の小中学生から応募のあった優秀作品をデザインしたポケットティッシュを作成、配布するとともに、街頭啓発にも活用し、市民への投票参加を促進したところであります。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 いろいろやっていただいたけども、7.1ポイント下がった。いろいろやったけど結果には出なかった。結果は7ポイントも下がってしまったという、これは事実だと思います。いろいろやられたけど、なかなか効果はそこまでなかった。

今回、2つ、選挙に関して市民の皆様からお声があったことがあります。まず1つ目は公報、選挙公報が届かないんだけどという声。もう一つは、防災無線で投票を促すようなことが、昔あったのに何で今回ないんだろうという声が2つ、大きいものでありました。これについて確認していきたいと思います。まず、今回、選挙公報は全戸配布できていたんですか。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 本市の条例に基づき、選挙期日の2日前までに全戸配布をするためには、配送業者の体制上、告示日の

午後 5 時までには公報紙を納品する必要があります。しかし、公報紙への掲載順序は公職選挙法の規定により、告示日の午後 5 時の立候補届出受付終了後に決定されます。この決定を受け、印刷業者が印刷を開始するのは午後 6 時頃からとなり、夜間作業での印刷を終え、乾燥、折り加工及び封入作業の工程を経て、納品できるのは最短でも 3 日後となるため、配送に必要な納品期限に間に合うことはできません。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 理由は分かったので。前は全戸配布できてたんですか、今回は全戸配布できてなかったんですか、確認で。

○渡辺議長 手を挙げてください。

入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 前はできておりました。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 なぜ今回できなかったんですか。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 配送業者の体制上の問題が一番大きいというふうに理解しております。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 全戸配布が今回はなかったということです。新聞の購読されてる方の折り込みのみで対応された。大体見てみると 6 割とか 7 割ぐらいが、世帯のうち新聞を取っておられるようです。そうすると、今回、陳情も上がってましたけども、2 万世帯ぐらいが公報が届かなかった、そういう状況だったわけです。じゃあ、投票される方は何を見て判断すればいいんですか、ポスターですか。選挙

カーもなかなか今、人員確保するの難しいんで、今回、回されなかった、回せなかった方もおられると思うんです。そういう状況で何を見て判断すればいいんですか。これはやっぱり、市民の皆様から、思いました。今回初めて選挙行こうと思うんだけど、何を見て判断すればいいんですか。だってそうですよね。選挙公報も届かないし、何をもってこの立候補者がいいのか、プロフィールも分かんないし、政策も分かんないし、雰囲気であればいいんですか、もう本当にそういう声が多かったんです。参考までに、ほかの県内の都市、どのような状況なんですか。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 県内他市の状況についてでございますけども、鳥取市が本市と同様となっております。その他の市は世帯数が全戸配布可能な規模のため、実施されておるところでございます。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 県内でも倉吉と境港市は全戸配布できているわけです。全戸配布するために郵便局で前回された。それ以外の方法って検討したのですか、するべきではなかったのですか。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 郵便局以外の民間配送業者への委託についても検討いたしましたが、限られた期間内に本市の全世帯への配布を完了することは物理的に不可能との回答を得ておるところでございます。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 前回できてたけど、郵便局が駄目って言ったから今回

はできなかった。では、エリアごとで分けて、例えば、ここは郵便局です、ここはポスティングです。やっぱり公報がないと判断できないし、選挙があるんだな、分からないと思うんです。結果として投票率の低下につながったのではないかと思うんです。エリアごとで分けて全戸配布、もう一回、次回の選挙から目指すべきではないでしょうか。検討するべきではないかと思いますが、いかがですか。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 エリア分けによる全戸配布につきましては、今後可能かどうか調査・研究してまいりたいと考えております。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 調査・研究ということなので、ぜひしていただきたい。何をもって判断すればいいか分からない、そういう声が多かった。

もう一つ、防災無線で期日前投票が始まりましたとか、今週日曜日は投票日です、皆さん投票しましょうというのが防災無線で流れる。それで、選挙があるんだな。新聞とか報道も、なかなか忙しくて情報が入ってこない方も、防災無線が入ってきたから選挙があるんだな、じゃあ、やっぱり選挙行かないといけないなって思うんです。今回少ないなという声が本当に多かった。前回と比べて今回どうだったんですか、実績は。

○渡辺議長 長谷川総務部長。

○長谷川総務部長 前回の選挙と比較いたしました無線放送の回数、頻度についてのお尋ねでございますが、前回の市議会議員選挙におきましては、投票日の当日に投票日であることをお知らせする無線放送を2回実施いたしました。今回におきましては、選挙管理

委員会からの依頼に基づきまして、期日前投票開始日、それから投票日の前日と当日、合計３回の放送を予定しておりました。しかしながら、期日前投票開始日の放送は予定どおり実施したところですが、残り２回の放送につきましては、放送予約機能の設定誤りによりまして放送することができませんでした。放送が流れなかったとの指摘を受けましたことから、事実確認の上で選挙管理委員会へ事情説明したところでごさいます。今後は、無線放送操作の確認を徹底して再発防止に努めてまいる所存でごさいます。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 前回も２回やって投票率下がってるんです。今回３回するって言って、結局１回しかされなかった。私のほうよりって、総務部長ですかね、選挙管理委員会に謝罪を行ったところってありますけど、謝罪するところが違うんじゃないですか。

○渡辺議長 長谷川総務部長。

○長谷川総務部長 この件につきましては、有権者の皆さんに対しまして大変申し訳なく思っているところでごさいます。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 当然ですよ。何でそんなことになったんですか、原因は何だったんですか。予定では、期日前投票日に、開始日に１回、そして、期日の前日と投票日に１回ずつ、計３回ということでした。最初の１回目は普通に予定どおり流れた。２回目は流れなかった。これ、誰もチェックしなかったんですか。

○渡辺議長 長谷川総務部長。

○長谷川総務部長 細かい状況について説明させていただきます。

期日前投票開始日に放送いたしましたが、残り２回は土日ということで、休業ということでございまして、予約機能を使って放送するということでございまして、それを行うような設定をしておりました。しかしながら、この間に機器の点検が急遽入りまして、その関係で予約機能がクリアになってしまったと言いますか、予約が取り消されたという状況になって、結果的に放送ができなかったということでございます。確認が不十分だったということであれば、そのとおりでございます。申し訳ございませんでした。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 土日だから分からなかったんですか。誰もチェックされなかったんですか。こんなんでもいいんですか、事務の仕方として、市長、副市長どうですか。こんなことあり得るんですか。どうお考えですか、市長。

○渡辺議長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 重ねてではありますが、予定されてた放送が放送できなかったことについては大変申し訳なく思っております。確実に放送できるよう、これは全ての事務がそうでありますけども、点検あるいは徹底を図ってまいりたいと思います。以上であります。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 このまちの将来を決める重要な選挙なんですよ。なのに、何でこんなミスがあり得るのか。市民の皆さん聞いてがっかりされるんじゃないですか。その割に投票に行けて、投票率下がったねって報道は言いますが、最低限できることはしないといけないんじゃないですか。ただでもどンドンどンドン投票率下がってるんです。３７％だけです。前回よりも、結果として公報も配ら

なくて、公報も全戸配らなくて、防災無線も本当は3回する予定だったけど、ミスで気づかなくて1回で終わってしまって、結果として投票率はぐっと下がってしまった。これ、米子市の責任って大きいんじゃないですか、こんなんでいいんですか。これは、あつてはならないことだと思いますよ。これ、私だったらね、私が執行部の側だったら、こういうことが起きたら真っ先に、僕は報道機関とかに報告したり、市民の皆様におわびすることが必要だったのではないかと思いますけど、この辺りどうですか、私の考えがおかしいですか。

議長、もう一回言いましょうか、答えられない。

○渡辺議長 いや。

○松田議員 意図が伝わらない。

○渡辺議長 松田さんの言うことがおかしいかという聞き方は答えづらいと思う、それは。

○松田議員 じゃあ、もう一回。いいですか。

○渡辺議長 でも、手挙げてますので。

伊澤副市長。

○伊澤副市長 重ねてではありますが、大変申し訳なく思っております。再発防止に努めたいと思います。以上であります。

○渡辺議長 手挙げて。議事進行じゃないでしょう。

松田議員。

○松田議員 あんまり身に入っていないような謝罪だと市民の皆さん思いますよ。立候補する側も人生かけて立候補してるんですよ。なのに、何ですか、その、あえて言うけど、お粗末なしぶりは。しかも、議会で僕が聞くまではオープンにしなかったわけでしょう、

そんなんでいいんですか。これ、反省していただきたいと思いますよ。このようなことを踏まえて、これからどうやって今後取り組んでいくのか、向上に向けて、投票率上げるためにどうされるのか伺いたいです。

○渡辺議長 長谷川総務部長。

○長谷川総務部長 無線放送による周知につきましては、今後は予定の放送をしっかりとやっていきたいという具合に、事務方とも合わせて確認作業を徹底して行ってまいりたいと考えております。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 増やすつもりはないですか、こんなに下がってるんだから。

○渡辺議長 入澤選挙管理委員会委員長。

○入澤選挙管理委員会委員長 防災無線放送における選挙広報につきましては、取りあえず従前どおりに回復させて、広報を続けさせていただきたいというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 松田議員。

○松田議員 こんなに下がって、私はどんどんどんやるべきだと思いますよ、もうちょっと回数を増やして。だって、投票率が下がってるんですもん、こんなに。できることはやりましょうよ、コストもそんなにかからないしと思いますよ。

質問時間終わって来ましたんで、最初に駅前通り3車線化について質問しましたが、平行線に終わりました。市長にはもう一回、今回の議論、今日の議論を思い出していただいて、何とかこの駅前通りの3車線化、見直すことを判断していただくことをお願いして、次回以降も駅前通り3車線化については追及をします。投票率も上

げるために、次回頑張ってください。お願いいたします。質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○渡辺議長　ちょっと待って。もう終わりましたからあれですけど、何度も申し上げますけども、入るときにこれを見て来られてますから、拍手をしないでくださいというのを誓って入られてると思いますので、注意にとどめます。

何ですか。

〔傍聴席で発言する者あり〕

○渡辺議長　ちょっと聞こえづらいんですけど。もっとはっきり言ってください。

〔傍聴席で発言する者あり〕

○渡辺議長　これは規則で決まっていますんで、考え直すとかどうという問題ではございません。御退場ください。退場してもらって。退出。退出。

何に手挙げとるんだ。ちょっと何が言いたいかをまず言ってください。何が言いたいかを許可を取ってください。

どうぞ、挙手して。

西川総合政策部長。

○西川総合政策部長　先ほど松田議員からお問合せがありました実証実験に対する評価の結果と割合についてというところ、すみません、即答できませんでしたが、ここで回答させていただきます。好意的に評価をされた方の割合というのが約3割でございます。低評価の回答をされた方の割合が約5割でございます。残り2割の方は分からないというような回答でございました。以上です。